

IV 地域復興活動のまとめ

理事会のもとに生活応援部会をにおいて、継続的に地域復興生活応援の活動に取り組みました。被災者支援の活動は、時間の経過とともに様相はかわりますがその必要は依然として大きく私たちの地域の一番の問題として活動していきました。

都市生活地域復興センターが1月に正式に設立されたことで、あらためて参加型福祉への展望をもって長期にわたる地域への活動を組み立てていく基盤ができました。活動会員・運営委員として参加するとともに、賛助カンパを毎月のOCR注文用紙で受け付けることで、財政的にも組合員全員が関わる問題として位置づけました。

<活動グループの結成と活動>

各支部でのグループ結成を目指しましたが、結果的に6つのグループが活動をしています。それぞれに、地域に密着した被災者支援の活動として広がりをつくり出しました。「わかば」や「かけ橋」の例のように、地域の高齢者との交流事業へと発展した活動もできてきました。活動計画は、基本的に各グループの自主性に基づいて計画し、月に一回の生活応援部会の会議で情報交換と地域復興センタースタッフとの調整をおこないました。仮設住宅支援から、徐々に恒久住宅へ移行した後のコミュニティ支援を視野にいれた活動が必要となってきました。活動を進めていく上で、組合員の参加の広がりをつくり出すこと、行政、社会福祉協議会などとの関係をさらに深めることも課題となりました。

生活応援部会全体で取り組んだ活動として、

1. リフレッシュステイ（6月の北阿万玉ねぎ援農・8月の香住交流会）をおこないました。
2. 10周年記念コンサートでは、日頃から関わりをもっていた仮設住宅で、希望のあった方400名を招待し、夕食やおみやげ（わたらい茶）を含めて無事に送迎することができました。
3. 署名活動に取り組みました。
被災者への公的な支援を訴える活動として、兵庫県・日生協を中心に提起された「地震災害等に対する国民的保障制度を求める署名」に取り組みました。組合員はもちろんその周辺、さらに県外の知人や親戚に対してもこの署名の意味を伝え協力を呼びかけました。11月には京都、1月には三宮での街頭署名も行い、最終的には組合員数の4倍近い23,555人の署名を集めました。

4. 地域福祉連続講座を開催しました。

地域復興センターとの共催の形で、福祉につながる学習と実地見学をおこな
いました。

7/15 中村 大蔵さん（特別養護老人ホーム園田苑）

9/10 中村 順子さん（コミュニティサポートセンター）

10/16 特別養護老人ホーム「園田苑」訪問見学

12/3 武田 純子さん（重度心身障害者父母の会）

2/24 「しあわせの村」訪問

3. 生活応援部会

3-1 部会を定例開催することができました。

- ・各活動グループの情報交換をし、いろいろな問題を解決しました。地域復興センタースタッフから他団体の活動について報告を受けることで多くのことを共有しました。
- ・O-157の流行により、食事会の予定を茶話会に変更せざるを得ませんでした。食べ物を扱う企画ではアルコールや逆性石けんで消毒し、衛生面には特に注意しました。
- ・仮設住宅の統廃合や被災者の復興住宅への転居により、仮設住宅が解消されたところでは、従来の活動を終え、新しく地域の福祉施設等に目を向け、活動を開始しました。
- ・支部機関紙で活動グループの紹介するとともに活動への参加を呼びかけました。

3-2 それぞれの活動グループで、行政・社会福祉協議会や民間の活動助成基金に申請を行い、活動助成を受けることができました。

3-3 各活動グループの主な活動

すまいる
(東神戸支部) : 仮設の自治会長さんを訪ね理解を求めたり、茶話会を開催しながら、手渡し共同購入について説明をし、毎週1回の手渡し共同購入を継続実施しました。

たまねぎの会
(西宮支部) : 他のボランティア団体と協力して、仮設や地域の高齢者との茶話会、昼食会や手芸を通しての交流会を企画しました。いろいろなつながりの中から散髪ボランティアの企画も生まれました。

たんぼぼ
(尼崎支部) : 毎月の仮設での昼食交流会から、四季に応じた企画へ変更しました。メンバーは「わかば」「さくらんぼ」の活動とも重複しながら活動しています。

わかば
(尼崎支部) : 仮設住宅や地域の高齢者と昼食会をもちました。参加している人同士の交流を図るために懐かしい唄を歌ったり、ゲームを行いました。

さくらんぼ
(尼崎支部) : 伊丹市内各地の仮設住宅で、社会福祉協議会とも協力して仮設交流会をもちました。

えんどう豆
(西神戸支部) : 仮設住宅の自治会、高校生のボランティアグループとともに季節感のある企画を行い、交流しました。

かけ橋
(南神戸支部) : 仮設住宅で茶話会や食事会を開いて交流していましたが、仮設住宅の解消に伴い、地域にある老人福祉施設で茶話会をすることにつながりました。

活 動 報 告

生活応援グループ名

わかば グループ

活動地域 尼崎 武庫之荘

日時	場 所	反省、その他
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	
7.12	武庫之荘北会館	地域老人のおさそいが大変難しかった。わかばの目的又、生協都市生活の説明をし、理解していただけるよう努力した。
13人	昼食会及び交流会	
8.19	武庫之荘北会館	0-157の為、昼食は中止、茶話会とした。老人会の会長、役員の方にわかばを説明し、独居老人等のおさそいの協力をお願いしたが、市に関係していない団体には老人会としては協力できないという返事でとても残念だった。
12人	茶話会 ・ビンゴゲーム ・手の体操	
9.20	武庫之荘北会館	尼崎市福祉協議会にボランティア登録をしました。支所で担当者の方お会いし、私達の思いを話し、今後のアドバイスやご協力をお願いしました。とにかく今は地道にわかばの輪を拡げてゆくしかないと思った。
14人	茶話会	
10.28	武庫之荘北会館	お弁当復活、会費としてお一人200円集めました。この頃から皆様との会話がとてりラックスして行えるようになり、嬉しく思いました。会場が2ヶ所ですので、働く人が多くほしい
20人	昼食会及び交流会	
11.15	武庫之荘北会館	11/21福祉協議会のボランティア代表会議に出席、県と市の助成金の申請の説明を受けた。月1回を心待ちにして下さる老人の方が増えてきました。
16人	昼食会及び交流会	
12.13	武庫之荘北会館	クリスマス交流会で、お弁当もクリスマスの感じを一杯に献立しました。21cmのクリスマスケーキ2ヶが出た時は皆様とても喜び感激されました。2ヶ月前から少しずつ準備した手づくりの鍋つかみに大喜びされ、私達もとても幸せな気持ちになりました。
25人	昼食会及び交流会	
1.20	武庫之荘北会館	参加申し込みが30名を越えました。まだまだと思っていたのに急に参加者が増えたことでお弁当の数やお碗その他揃っていないものが多く受け入れ準備の不十分さを強く感じました。会場のセッティングから考えて高齢者30名受け入れ、スタッフ10名、40食を限度とする事を決めた。福笑いゲームは数人の方に前に出ただき、全員で声を出してもらい、とても愉快なおかめが出来ました。
38人	昼食会及び交流会 ・歌いましょう ・動物あてゲーム ・福笑いゲーム	
2.14	武庫之荘北会館	炊き込み御飯が硬くて炊き直しがあり昼食が20分も遅くなりました。会館の受付を高齢者の方がして下さって大いに助けられました。これからも高齢者の方に出来ることをお手伝いしていただこうと思う。市の生活課の方が参加してくださって愉快的話術で皆を楽しませて下さいました。人数が増えた分、狭い洗い場での食器の後片付けは、随分時間がかかり困ります。
36人	昼食会及び交流会 ・歌いましょう ・塩、タンゲーム ・動物あてゲーム	
3.24	武庫之荘北会館	今回は、ちらし寿司でお皿に盛り付けました。ゲームも皆様積極的に参加して下さるのがとても嬉しいです。自己紹介をして皆が本町1~2丁目、武庫之荘5丁目のお隣同士とわかりとても親近感が湧いたようです。3月24日、社協の助成金15,000円県の助成金50,000円が入金されました。今後の活動への意欲も湧き、同時に責任の重さも強く感じています。
37人	昼食会及び交流会 ・歌いましょう ・手の体操 ・言葉探しゲーム ・自己紹介	

活 動 報 告

生活応援グループ名

さくらんぼ

活動地域

伊丹

日時	場 所	反省、その他
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	
5.11	車塚仮設	「支部まつり」を仮設で行ったことは、仮設住民、組合員、双方にとって良かった。
150人	支部まつり、交流会	
7.1	鵜飼昭和・川辺公園仮設	行政の目の届かない小さい仮設。3回目の交流であるが、全員顔馴染み。七夕飾りを作った。
17人	七夕交流会(巻寿司)	
7.25	荻野仮設	自治会長を始め、皆さん、私たちに良くして下さいます。牛井の煮込み時間が足りなかった。
38人	炊き出し、青空市	
8.5	北河原仮設	〇-157の為、炊き出しが茶話会に変更。小人数でゆっくりと話げできた。
24人	茶話会、青空市	
8.29	池尻仮設	同じく、茶話会に変更。仮設ふれあいボランティアの人達がゲームで盛り上げ、カラオケ、盆踊りで締めくくった。皆仲が良い。
35人	夕涼み会、青空市	
9.3	神戸文化ホール	都市生活10周年コンサートに伊丹仮設より参加。温ったかいコンサートに皆さん大喜びだった。
83人	コンサート	
9.30	奥畑仮設	仮設から包丁持参で炊き出しの応援に来てくれた。話も弾み私達も大助かり。牛井は、あつという間に無くなった。
86人	炊き出し、青空市	
10.31	車塚仮設	仮設ボランティア6名の方が、大変協力的で、たくさん手伝って下さった。青空市も大好評。しょうゆ、後日配達した。おばあちゃんが何回も話をしに来た。
76人	炊き出し、青空市	
11.4	荻野仮設	民生委員、仮設の方5~6名が手伝って下さり、大助かり。おしゃべりも弾み、和気あいあいの炊き出し風景。次回、3月を約束。
25人	炊き出し、青空市	
12.5	北河原仮設	どしゃ降りの雨であったが、仮設ボランティアの方も手伝って下さり、昼には雨も上がり在宅している方は殆ど参加。ゆっくりとくつろいでいかれた。
21人	炊き出し、青空市	
12.26	昭和・川辺公園仮設	4回目の訪問。全員顔馴染みで、お元気そうで良かった。次回は来春の予定。
15人	もちつき大会	
1.23	車塚仮設	おでん・菜めしが大好評。仮設住民のお手伝いも多く、青空市も大好評。
74人	炊き出し・青空市	
2.3	奥畑仮設	「節分の日」豆まきと150本の巻きずし作り。「くじ引き」で盛り上がった。
108人	炊き出し・青市・ゲーム	

活動報告

生活応援グループ名

さくらんぼ

活動地域

伊丹

日時	場所	反省、その他
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	
2.17	北河原仮設	「くじ引き」で盛り上げた。
26人	炊き出し・青市・ゲーム	
3.3	池尻仮設	仮設住民、ふれあいボランティア、地域の方々、社協、さくらんぼ、ビンゴゲーム・カラオケで大変盛り上がり、私達も楽しませてもらった。
46人	お別れ会	
3.6	荻野仮設	おじいさんの多い仮設で、静かな交流会となった。各仮設が9月にはここ一カ所に集約されることになった。
22人	お別れ会	
3.17	北河原仮設	2月3日と連続して交流会を行った。すまいるの応援により、とても明るい会になった。
18人	炊き出し・青市・ゲーム	

活動報告

生活応援グループ名

グループ かけ橋

活動地域

明石・垂水

日時	場所	反省、その他
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	
9.9	中崎ふれあいセンター	初めてだったので準備に手がかかり、茶話会が遅くなり青空市だけで帰られた方がいらしゃったので、これからの反省にしたい。
31人	青空市、茶話会	
10.21	中崎ふれあいセンター	少々の失敗もありましたが、美味しく出来ました。3名の年長者が最初から手伝ってくれました。今回より1人参加費を100円いただきました。食事会は皆に喜ばれました。
30人	料理会	
11.26	西明石ふれあいセンター	事前に布地や厚紙をカットして、小物もすべてセットしておいたので、すぐに取りかかる事ができました。
11人	手芸会、茶話会	
1.29	西明石ふれあいセンター	きな粉・青のり・つぶあん・こしあんを皆で自己流にアレンジして、一緒に作りました。話も弾んで楽しい一日でした。
20人	お菓子作り・茶話会	
2.26	西明石ふれあいセンター	料理はあつという間に出来上がり、煮上がるまで皆で茶話会をして大変盛り上がりました。3/20で西明石ふれあいセンターは閉館されました。短い間でしたが楽しい思い出が出来ました。
30人	料理会・茶話会	
3.12	桃山台特別養護老人ホーム	初めての行事ですが、思いがけず40名ほどの参加があり、入所者に大変喜ばれました。私達もこれからの生き方etcとても参考になり、勉強する事が出来ました。これからも月1回行う予定です。
45人	喫茶店	

活 動 報 告

生活応援グループ名 たまねぎの会

活動地域 西宮

日時	場 所	
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	反省、その他
4.18	津門住江公園仮設住宅	お花見の時期で大変喜んでもらえた。(ちらしずし)
30人	炊き出し、青空市	
4.26	西宮浜ふれあいセンター	
40人	茶話会	
5.16	津門住江公園仮設住宅	(牛井)
30人	炊き出し	
5.24	西宮浜ふれあいセンター	
40人	茶話会、手芸講習	
6.13	津門住江公園仮設住宅	出張美容室 (炊き込み御飯)
30人	炊き出し	
6.28	西宮浜ふれあいセンター	「たまねぎの会」「プロジェクト結ふ」に加え、ふれあいセンターも茶話会に協力してくれることになり、活動がしやすくなった。
40人	茶話会、手芸講習	
7.11	津門住江公園仮設住宅	食中毒の心配もあり、茶話会へ切り替えた。
20人	茶話会、手芸講習	
7.25	西宮浜ふれあいセンター	青空市、出張美容室、子供の工作教室。企画を増やしたら参加者も増えた。
60人	茶話会、手芸講習	
8.22	西宮浜ふれあいセンター	
40人	茶話会	
9.12	津門住江公園仮設住宅	
20人	茶話会、手芸講習	
9.26	西宮浜ふれあいセンター	青空市、出張美容室。
50人	茶話会、手芸講習	
10.7	西宮浜ふれあいセンター	
10人	手芸講習	
10.17	津門住江公園仮設住宅	花の鉢をプレゼント(他の仮設住宅2ヶ所にも)
20人	茶話会、手芸講習	

活動報告

生活応援グループ名

たまねぎの会

活動地域

西宮

日時	場 所	反省、その他
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	
10.24	西宮浜ふれあいセンター	青空市、出張美容室、花の鉢の格安市。
50人	茶話会、手芸講習	
11.14	津門住江公園仮設住宅	
20人	茶話会、手芸講習	
11.28	西宮浜ふれあいセンター	青空市、出張美容室。豚汁とおむすびの炊き出し。手づくり袋プレゼント。今まで顔を出した事のない人達も参加してくれた。
100人	茶話会、手芸講習	
12.2	西宮浜ふれあいセンター	
10人	手芸講習	
12.12	津門住江公園仮設住宅	豚汁とおむすびを用意(センターで調理) 手づくり袋プレゼント
30人	茶話会、手芸講習	
12.25	西宮浜ふれあいセンター	ふれあいセンターの主催。が、企画、進行は「結ぶ」「たまねぎの会」で行った。大人用のプログラムも用意すべきだった。
100人	クリスマス会	
1.16	西宮浜ふれあいセンター	茶話会におぜんざいを提供。これまで被災者の方が作ってきた手芸作品を展示。手作りお手玉を浜脇小学校へ寄贈。(NGO 防災国際フォーラム市民文化祭の一環として)
120人	震災を忍ぶ茶話会	
2.3	西宮浜ふれあいセンター	貝のおひな様
10人	手芸講習	
2.12	復興センター	住江公園仮設住宅、西口公園仮設住宅の方々と、地域の高齢者の方々との食事会開催。炊き込みごはん他用意。おひな様の色紙額作り。
30人	地域交流食事会	
2.27	西宮浜ふれあいセンター	甘酒、ひなあられ、お団子を用意。男性の参加者も増えて来て今後は食事の提供が望まれてきている。手芸はおひな様の色紙額作り。
120人	茶話会、手芸講習	
3.3	西宮浜ふれあいセンター	甘酒提供。ボランティアグループ「結ぶ」を手伝う。
50人	ひなまつり	
3.6	甲南リビング	ふれあいサロン活動、高齢者ケアについての情報学習とたまねぎの会の交流会の開き方、手芸講習についての情報交換。
10人	ボランティア交流	
3.13	津門住江公園	押しずし、五目汁、抹茶寒天を用意(センターで調理)。安否確認と住江公園の一年の締めくくりとして開催。
26人	昼食会	

活 動 報 告

生活応援グループ名

えんどう豆

活動地域

西神

日時	場 所	反省、その他
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	
4.24	西神第3仮設	西神戸支部の料理試食会(運営委員研修会を兼ねて行った)支部委員長と、仮設の自治会(ふれあいセンター)との思いにずれがあった。
50人	食事会	
8.17	西神第11仮設	ゲーム(輪なげ)の景品に消費材を使用。0-157の件があり、炊き出しは中止。
200人	納涼、盆踊り大会	
10.9	西神第3仮設	卵、りんご完売。 卵の量、調整がむづかしい。
70人	青空市	
10.9	西神第11仮設	手芸(貝の根付け)、卵は完売。 卵の量が不足した。定期市を希望された。
100人	青空市	
11.2	西神第11仮設	豚汁、炊き込みごはん(200食)、高塚高校生、先生と共に。炊き出し用消費材は学校負担。卵完売(足らなかった)。他の消費材も少し足らなかった。
150人	炊き出し、青空市	
11.9	西神第3仮設	豚汁、炊き込みごはん(100食)。 卵は残が多かった。(この日、他から仮設への卵の寄付有り)
70人	炊き出し、青空市	
12.11	西神第11仮設	卵、その他、ほぼ完売。 仮設のおばちゃんがよく手伝ってくれた。
50人	青空市	
12.21	西神第3仮設	
60人	クリスマス会	
1.25	西神第11仮設	仮設、自治会中心で前日のぜんざい作り、もち米の水付け、もちつきの用意など全て任せた。高塚高校の生徒の手伝いも多く大変なにぎわいで終わった。
150人	もちつき大会	
2.19	西神第3仮設	消費材にも慣れ、常連の人が目立つ。
20人	青空市	
2.19	西神第11仮設	
30人	青空市	生ものの売れ残が多い。 青市の後、自治会とこれからの活動について話し合った。これからは時間にゆとりを持たせ、気軽に遊びに行く感覚での交流が望まれていた。
3.19	西神第3仮設	
10人	青空市	
3.19	西神第11仮設	
40人	青空市	

活動報告

生活応援グループ名 ボランティアグループ すまいる 活動地域 ポートアイランド

日時	場所	反省、その他
参加人数	内容(炊き出し、青空市など)	
95' 6.21 ～ 96' 9.21	ポートアイランド 青空市 通算66回 組合員参加 1日6～7人 延べ 約400人	<p>目的：買い物の不便さの手助けになればと重いもの、かさばるものを中心に野菜、生鮮食品などを販売。</p> <p>内容：定曜日、定時刻の活動。毎週水曜日第1～第4仮設住宅(合計1100世帯)を30分毎に移動して販売。価格は組合員価格の2割引で救援特別価格を設定。割引分をカンパ金で補う。</p> <p>エピソード： ・重いものなど頼まれたら玄関まで運んだ。 ・長期の継続した活動によって常連さんや人気商品が生まれた。 ・仮設住民同士のコミュニケーションの場にもなった。</p> <p>※現地救援本部解消(96'3月末)により青空市を同じ形態で続けることはむずかしい状況になる。以後、青空市を解消し手渡し共同購入へと販売形態を変更した。同時に4月よりボランティアグループ“すまいる”を結成した。</p>
96' 3.6 ～ 6.26	回覧注文用紙による 実験共同購入 第3仮設のみ (約100世帯) 通算5回	<p>目的：回覧注文書を使って仮設住民相互のコミュニケーションを計るため。</p> <p>内容：回覧注文書は1棟(10世帯)に1枚ずつ配布。品目は米・ティッシュペーパー・ロールペーパーだけにしぼった。値段は超低価格。配達、集金は個(戸)別に行った。</p> <p>エピソード：回覧はされなかったが協力的な棟長さんが1軒毎に注文を聞いて歩いてくれた。配達や集金も手伝ってくれた。</p>
7.3 ～ 97' 3.26	手渡し共同購入 通算25回 組合員参加 1日8～9人 延べ約250人 ※「すまいる」所属以外の組合員が8人、組合員以外の支援スタッフが12人でこの活動を支えている。	<p>目的：買物の不便さの解消の一助と安否の確認。さらに健康的な生活の応援。</p> <p>内容：毎月第1～第4仮設住宅(合計1100世帯)に注文用紙を配布し、予約注文を取る。翌月の毎週水曜日にふれあいセンターへ配達し取りにきてもらう。しかし、超高齢や傷病のため動けない方にはこちらから出向き(訪問活動)、御用聞きを行い配達もする。</p> <p>エピソード：訪問対象としている右半身不自由な方の食パンをスライスしに行っていた。しかし、最近自分で切れるようになりとても嬉しかった。</p> <p>※7月～9月 第3仮設で実験的に行い、細部の見直しを検討。 10月 残り3つの仮設で説明会を開催し10/2(水)に全仮設で一斉にスタート。 12月 第1仮設のみ利用者が極端に少ないため全400戸御用聞きを行う。さらに注文者には個(戸)別配達を行う。(注文数の4倍に増えた)</p>